

2025 年 11 月 旅行取扱高状況報告

< 日本国内における旅行区分別取扱高 >

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年同月取扱高	前年同月比
海外旅行	24,671,124	21,833,380	113.0%
国内旅行	4,636,496	4,439,206	104.0%
訪日旅行	1,424,238	1,411,983	100.9%
合 計	30,731,859	27,684,570	111.0%

※株式会社エイチ・アイ・エス及びグループ 5 社（株式会社オリオンツアー、株式会社クオリタ、株式会社クルーズプラネット、株式会社ジャパンホリデートラベル、株式会社エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した旧会計基準の取扱高となります。

< 海外旅行取扱高 方面別・商品別・チャネル別データ >

方面別	前年同月比
アジア	100.6%
オセアニア・南太平洋	107.2%
ハワイ・ミクロネシア	112.3%
欧州・中近東・アフリカ	129.5%
北米・中南米	119.9%

商品別	前年同月比
手配旅行	106.1%
企画旅行	124.8%

チャネル別	前年同月比
店舗	114.4%
オンライン	118.3%
法人	100.2%

■海外旅行

11 月 21 日より「HIS ブラックフライデー」を開始しました。価格訴求力のあるツアー商品の展開に加え、FIT（個人旅行）層に対して最大 1 万円のクーポン配布や「航空券＋ホテル」のセット割引を実施し、間際の出発を含めたさらなる需要喚起に努めました。

取扱高においては、欧州・中近東・アフリカ方面が前年同月比 129.5%と全体を大きく牽引しました。特に、添乗員同行ツアー「impresso（インプレス）」の早期展開が奏功し、同 152.4%と好調に推移しました。加えて、ベストシーズンを迎えたエジプトにおいて、航空座席の供給数を増加し間際需要をも取り込んだことが、同エリアの取扱高のさらなる積み上げに寄与しました。またハワイ・ミクロネシア方面は同 112.3%と堅調に推移し、ハワイにおいては、円安に伴う現地支出の抑制ニーズから、観光や食事が旅費に含まれた商品を選択する動きが顕著となったほか、大人同士の「母娘旅」などの需要が伸長し、顧客層の広がりが見られ、同 109.7%となりました。

以上の結果、海外旅行取扱高は、前年同月比 113.0%の 246 億 7,112 万円となりました。

■国内旅行

冬のイルミネーションが盛況なハウステンボスを筆頭に、長崎県を含む九州エリア全体が前年同月比 121.9%と伸長し、全体を牽引しました。また、秋の行楽シーズンにおけるバスツアーの展開として、11 月 21 日・22 日に長野県阿智村にて「日本一の星空」観賞イベントを実施。3 エリアから計 1,000 名超を集客し、高付加価値な体験型商品の提供に注力しました。加えて、山梨県の「昇仙峡」や「河口湖」、群馬・栃木県の「わたらせ渓谷鐵道」など、首都圏発の日帰り紅葉バスツアーが人気を博し、秋の味覚やイルミネーションを組み合わせた季節感のある企画が支持され、バスツアー全体の取扱高は同 108.5%となりました。

以上の結果、国内旅行取扱高は、前年同月比 104.0%の 46 億 3,649 万円となりました。

■訪日旅行

北米からの団体旅行による高付加価値の「体験型シリーズツアー」の受客が好調に推移したことに加えて、イタリア・オランダをはじめとする欧州からの受客も着実に伸長しました。これら欧米圏からの受客が全体の構成比で 7 割弱を占め、前年同月比 129.7%と高い水準を維持しました。また、FIT（個人旅行）商材においては、東南アジアや欧米の OTA（オンライン旅行会社）を中心に流通を強化し、紅葉シーズンの「富士＆箱根」や「広島＆宮島」を巡るバスツアーが人気を博しました。加えて、グループ会社のジャパンホリデートラベルでは、好調を継続している札幌近郊のバスツアーに加え、京都府亀岡市から嵐山までを結ぶ人気の観光コース「嵯峨野観光鉄道・保津川下り」がトップシーズンでもあり、FIT 商材の取扱高の積み上げに寄与しました。

以上の結果、訪日旅行取扱高は、前年同月比 100.9%の 14 億 2,423 万円となりました。

2025 年 11 月の日本国内における旅行取扱高合計は、前年同月比 111.0%の 307 億 3,185 万円となりました。

2025 年 11 月 海外における旅行取扱高状況報告

< 海外における旅行区分別取扱高 >

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年同月取扱高	前年同月比
インバウンド	11,032,624	10,034,977	109.9%
アウトバウンド	13,274,618	13,698,242	96.9%
合 計	24,307,242	23,733,219	102.4%

※エイチ・アイ・エス海外現地法人 31 社と海外子会社 4 ブランド (MIKI グループ、MERIT TRAVEL、JONVIEW CANADA、RED LABEL VACATIONS) の社内取引相殺前の取扱高となります。なお、為替換算レートにつきましては、期中平均レートにて算出しております。

※海外におけるインバウンドとは、各海外拠点における旅行受客業務の取扱高。海外におけるアウトバウンドとは、各海外拠点における旅行送客業務の取扱高。

※HIS 欧州現地法人の一部と MIKI グループとの統合により調整後の取扱高を反映しております。

■ 海外インバウンド

インバウンド事業におけるグローバルマーケットの拡大に向けて、韓国最大手の旅行会社である HANATOUR SERVICE INC.と戦略的提携を締結しました。両社のリソースを融合したグローバルな旅行商品を提供していくことにより、受客業務のさらなる基盤強化に努めます。

エリア別の取扱高においては、東アジアが前年同月比 105.0%と堅調に推移しました。韓国では 10 月の「チュソク（旧盆）」に伴う混雑や旅行代金の高騰を避けた需要が 11 月に集中しました。ホテル在庫の不足から同 98.6%に留まったものの、引き続きエリア全体を牽引する高い需要を維持しています。また、香港においては、香港ディズニーランド・リゾートのパッケージ商品の早期取り込みが奏功したことで、同 115.5%と伸長し、エリア全体の取扱高を下支えしました。イギリスでは、ロンドンでの MICE 案件の受注に加え、日本市場向けの積極的な媒体露出により添乗員同行ツアーの受客が好調に推移し、同 146.3%となりました。また、エジプトにおいても、添乗員同行ツアー受客が好調であったことに加え、青年国際交流事業の受注に伴う 100 名規模のナイル川クルーズ手配などが寄与し、同 293.3%と大幅な伸長を記録しました。

以上の結果、海外インバウンド取扱高は、前年同月比 109.9%の 110 億 3,262 万円となりました。

■ 海外アウトバウンド

タイでは、現地在住の日本人に向けた「チェンマイ・コムロイ祭り」のパッケージツアー販売が好調に推移し、前年同月比 115.3%となりました。ドイツでは、日本の紅葉シーズンに合わせた日系企業による日本主要都市への団体旅行受注が取扱高に貢献し、同 188.6%となりました。取扱高を大きく牽引するカナダでは、政治・経済情勢の影響により米国旅行が引き続き低迷しているものの、温暖なカリブ海地域やメキシコへの需要の継続的な取り込みに加え、欧州行きの長期滞在クルーズ旅行が人気を集めたことで、同 106.9%にて着地しました。一方、海外アウトバウンド取扱高の構成比約 1 割を担っていたトルコ法人においては、海外アウトバウンド事業の縮小に伴い、取扱高が大幅に減少し、同 13.8%となりました。

以上の結果、海外アウトバウンド取扱高は、前年同月比 96.9%の 132 億 7,461 万円となりました。

2025 年 11 月の海外の旅行事業取扱高合計は、前年同月比 102.4%の 243 億 724 万円となりました。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス I R 室：050-1746-4188
 広報室：050-1746-4177